
Canyon Partners が設立する ABF オリジネーションプラットフォームへの参画について

株式会社第一ライフグループ（代表取締役社長 グループ CEO：菊田徹也、以下「当社」）は、当社の持分法適用関連会社である Canyon Partners（以下「Canyon」）が新たに推進する資産担保ファイナンス（Asset-Backed Finance、以下「ABF」）戦略に関連し、Canyon の経営陣および Korea Investment Holdings とともに、Canyon が新たに立ち上げた ABF プラットフォーム（以下「本件 ABF プラットフォーム」）にアンカー投資家として参画したことをお知らせします。

本件は、当社が 2024 年に戦略出資を行った Canyon との関係をさらに発展させる取組みです。成長が見込まれる ABF 分野へのアクセスを強化するとともに、オルタナティブ投資領域でのアセットマネジメント事業の高度化を進めるものと位置づけています。

1. 本件の概要

Canyon が推進する ABF 関連の投資戦略は、同社がこれまで培ってきたクレジット分野での運用経験やネットワークを基盤とするものです。本件 ABF プラットフォームの設立を通じ、住宅ローン、消費者ローン、設備ファイナンス、オートローンなどさまざまな債権を原資産とした証券化商品を年間 50 億ドル超の規模で組成することが可能となります。

当社は、Korea Investment Holdings とともに、本件 ABF プラットフォームが運用するファンドに投資を行うことにより、運用収益の多様化を実現するとともに、従来の金融機関だけでは十分に対応しにくい領域に対して、機動的な資金供給を行います。

また、本件 ABF プラットフォームは、ABF およびストラクチャードクレジット分野で 30 年以上の経験を有する Jay Kim 氏が率います。同氏は、直近では Apollo Global Management の関連会社である ATLAS SP Partners の CEO を務め、それ以前には Credit Suisse で債券および証券化商品部門を率い、ストラクチャードクレジットビジネスを長年牽引してきました。こうした事業構築力とオリジネーションの経験を持つリーダーが加わることで、Canyon のクレジット投資能力が一段と強化されることが期待されます。

2. 本件の背景

近年、欧米を中心に、ABF 分野では、銀行による資金供給が限定される場面が増える一方で、実体経済における資金需要は引き続き存在しています。こうした環境のもと、保険会社や資産運用会社など、長期的かつ安定的な資金を有する投資家の重要性が高まっています。

Canyon は、1990 年の設立以来、コーポレートクレジット、ストラクチャードクレジット、不動産等の分野において運用実績を積み重ねてきました。特に、ストラクチャードクレジット分野では 20 年以上にわたり取組みを継続しており、現在では同社の中核分野の一つとなっています。

当社は、Canyon が持つ投資専門性や事業の成長に着目して戦略的パートナーシップを築いてきました。本件は、そうした関係をさらに発展させ、成長が期待される分野での連携を深めるものです。また、本件は当社のオルタナティブ投資領域でのアセットマネジメント事業の高度化につながるものと位置づけています。

3. 本件の戦略的意義

(1) 成長が見込まれる ABF 分野へのアクセス強化

ABF は、機関投資家の役割が拡大している成長分野です。本件を通じて、当社は実物資産に裏付けられた多様な投資機会へのアクセスを強化し、長期・安定的な収益機会の拡充を図ります。

(2) Canyon との戦略的パートナーシップの深化

本件は、当社と Canyon の関係を、資本提携に加えて、将来の成長分野における具体的な協働へと発展させるものです。

4. Canyon Partners について

Canyon Partners は 1990 年に設立されたグローバル・オルタナティブ運用会社であり、コーポレートクレジット、ストラクチャードクレジット、不動産等の分野で運用を行っています。専門的な知見と調査力を活かし、多様な機関投資家の資金を運用しています。

詳細については、Canyon のウェブサイト (<https://www.canyonpartners.com/>) をご参照ください。